



プログラミング コンテスト表彰式

11月23日、市民センターで『IMARIKids プログラミングコンテスト2023』の表彰式が行われました。

このコンテストは、小学生向けプログラミング教育事業を行っている株式会社CA Tech Kids（東京都）の協力を得て、プログラミングに関する学習意欲やスキルの向上を図ることを目的に、毎年開催されているものです。受賞者は、次のとおりです。

▽第1位 松尾 優人さん（松浦小6年）

『エネルギーライフゲーム』

▽第2位

井手 成栄さん（立花小5年）

『スコアをためて地球を救え!!』

▽第3位

上野空之介さん（大坪小3年）
『落ちてきたリンゴを食べるゲーム』



↑表彰式に出席した井手さん（左）と上野さん

みんなで
考えよう
人権・同和問題
No.268

このコーナーは、隔月のシリーズで掲載しています。これを手がかりに、家庭で人権・同和問題について話し合ってみましょう。

●問合先 生涯学習課人権・同和教育係（☎23・3186）

過去に学び今を知る

冊子『同和問題・教育に関する『広報いまり』掲載記事集』昭和50年度から平成7年掲載分』を読みました。

本年（令和6年）は、昭和でいえば『昭和99年』です。人権感覚や同和問題への市民の意識は、この半世紀でどう変わっているだろうかと考えながら読み進めました。

昭和53年7月1日発行の『社会同和教育研修講座に参加して』昭和52年度社会同和教育研修講座・延べ200人が参加』という記事から、参加者感想の一部を紹介します。

まず、山代町のQさんは「講座に参加して、回を重ねるごとに同和問題に対する理解が少しずつ深まって、皆さんとともに、この問題解決のために努力しなくてはならないと思いました。学習会の目的を自分なりに書いて案内状を用意し、30戸の家を戸別に訪問

し、在宅の人には説明して届けたのですが、一般には無関心で取り組みが遅れていることを残念に思いました。

次に、黒川町のZさんは「長い時代を差別と偏見の中で暮らしてきた私たちですから、一朝一夕で変わるものではないでしょうが、これから機会を見つけて研修に参加し、意識の変革をはからなければなりません」と思っています。

そして、瀬戸町のVさんは「私たちの社会では、職業によって人間の値打ちを決めるという職業差別もあります。職業によって人を差別する心は、部落差別と同じ偏見だと思えます。」

ほかに、多くの受講者の言葉が収められています。およそ半世紀前の市民の声は今に生きていて、学習や啓発の大切さを私たちに教えてくれています。

郷土の文化財

●問合先 生涯学習課文化財係（☎22・1262）

史跡大川内鍋島窯跡調査事業

『日峯社下窯跡の調査成果⑨』

鍋島焼は、有田の岩谷川内で作られ始めて、その後、大川内山に移転したと考えられています。移転時期については、1655年頃とする説と1660年代とする説の2つの説があり、それを知る手がかりが江戸城にあります。

1657年（明暦3年）に江戸で大火が起こり、江戸城も焼け落ちていますが、最近の江戸城での発掘調査で、この大火で被災した初期鍋島が出土しています。

被災した初期鍋島と、まったく同じタイプの製品が日峯社下窯跡から出土すると明暦3年の時点ですでに窯が操業していたことになり、1655年頃とする説が有力となります。逆に、被災した初期鍋島と同じ陶片が、窯跡から出土しなければ、明暦3年以降に操業を開始

した可能性があります。

窯跡から出土した陶片（写真）と近いデザインのもものが被災した江戸城で見つかった初期鍋島の中にもありましたが、形が少し違って、全く同じ種類ではありませんでした。そのため、移転した時期については、特定できないため、今後もさらなる調査研究が必要のようです。



↑日峯社下窯跡から出土した陶片